

「新しい活動形式」の中でのくま集会 2020.09.26

「東金青年の家」で開催した今年度のくま集会は、コロナ禍の中での活動となるため、例年は1泊2日で行っているところを、活動内容をできるだけ減らさないようにしながら1日で活動することになりました。

今回のテーマは「忍者学校にようこそ」。

当日はくもり空に時々小雨が降るような中でしたが、14人のスカウト達は忍者の見習いとして、いつもと変わらず元気よく竹工作、ミニハイキング、キャンドルファイアなどに参加。くまスカウトだけの活動ならではの高いチームワークや時間管理などが見受けられ、とても感心させられました。

コロナ感染防止対策や2日間の内容を1日で実施するためのプログラム内容の凝縮など各プログラム担当の方々には直前までご準備を頂き、とても有意義な活動になったと感じています。ですので是非ともくまスカウトには今回の経験をもとにボーイ隊へ上進し、更なる成長をしてもらいたいと思っています。

(市原第7団カブ隊長 山本 清珠)



○私は、くまスカウト集会に参加しました。この集会では、私の知らない人ばかりでしたが、楽しい一日にすることができました。ハイキングなどの活動では、同じ組の仲間と、話を聞くときには聞く、活動するときはしっかりと行うなどのメリハリをつけられ、協力することができました。ゲームでは、この協力をもとに、1位にはなれなかったけれど、2位になることができました。うれしかったです。

この集会のおかげで、協力という大切なことを学びました。

(市原第6団 首藤 和栞)

○くま集会で心に残っているのは、けん玉作りとハイキングです。けん玉の素材は新聞紙、たこ糸、ビニールテープ、竹、そして割りばしです。太い竹を選んだら、うまく入りました。その太い竹を切るのに時間がかかり大変でした。

デンリーダーの力も借りて切りました。組の中で私が一番先に作り終わったので、他の人のけん玉づくりの手伝いをしました。そのスカウトのけん玉も上手に出来上りました。

午後にしたけん玉をハバザックに入れ、ハイキングに行きました。追跡サインに迷っていたらあという間に3組に抜かされそうになり、ビックリしました。チェックポイントのゲームでけん玉をして、太い竹のおかげで班の中のスカウトの一人が最高記録16回入れることができました。くま集会ではハイキングできて良かったです。そして、今年はカブ隊のキャンプがやれなかったのにくま集会に行けて良かったです。そして、医りょう忍者のミッションで特別賞をもらったのでうれしかったです。(東金第1団 高宮 美桜)



○参加くまスカウト全部で14人が3組に分かれ、ほくは2組の組長になりました。

午前中、雨だったので室内で組ごとにテントを張り、午後は竹でけん玉を作ってハイキングに出発しました。3ヶ所のゲームポイントでは、けん玉を使ったゲームや、歩測などのゲームがありました。ハイキングの後のキャンプファイアは室内で火は使えなかったけど、楽しかったです。

最後の閉会式で、ゲームポイントの結果が発表されて、ほくの班は優勝できたので、うれしかったです。新しい友達もできて、今年で一番楽しい一日になりました。

来年のカブラリーも、とても楽しみです。(東金第1団 廣田 理馬)



スカウトフォーラム 2020.10.11



案は残念ながら、通りませんでした。個人的には、県のスカウトが集まるスカウトフォーラムに参加することにより、良い経験を積むことができたので、このことをこれからの活動等にも

私は、令和2年10月11日に船橋市視聴覚センターで開催された県連盟スカウトフォーラムに、上総地区の代表として参加しました。参加スカウトは、県内の地区代表の方々です。新型コロナ禍で参加人数が制限されたそうですが、それでも私たち上総地区でスカウトフォーラムに関して話し合った人数よりもはるかに多く、その中の一人として参加したわけですので、最初とても緊張していました。上総地区以外の県から集まってきたスカウトに知り合いや友達はいなかったのです。しかし、議論が進むにつれ、他のスカウトとのコミュニケーションができるようになり、終わる頃には、普通に話せる仲になった人ができるほどになりました。なので終わった後、私は安心して帰ることができました。スカウトフォーラムで上総地区の提案した

生かしていく所存です。
(市原第1団 若海 春輝)

私たちは、今回のスカウトフォーラムでSDGsのゴミ問題を議論してきました。このゴミ問題はとてもホットな話題で日本ではビニール袋の有料化や紙ストローへと変化しています。しかし問題を解決してもまた別の問題が発生してしまうというとても難しいものでした。その中で出した私たちの答えとはマイシリーの風潮を広げていこうということでした。

現在アメリカなどでは、マイボトルなどが流行っておりスカウトの中でもマイバックやマイストローなどを取り入れていました。自分もマイバックを持ち歩き始めましたが、マイボトルやマイストローなどの考えには至りませんでした。「使い捨てという便利なものがあるのにわざわざ

家から持ってこなくても」という考えがあり、私自身だけでなく一人一人が少しの甘えでこうなってしまったというのをすごく痛感し反省しています。このことから普段から世間の問題に耳を傾け考え行動している必要があると感じました。これから先、人々が住める地球環境を保つことが出来るのは、今の自分たちだけなのです。(市原第6団 富永大貴)

コロナに負けるな!



ヒロキ (ローパースカウト山本開生)



「デイキャンプの奉仕に参加して」 ローバースカウトの活動

市原青少年会館主催で行われたデイキャンプに10月11日と18日の2回に渡って上総地区ローバースカウトとして参加しました。今年度は定員を超える応募があり、例年より多い参加者数となったそうです。



まず11日の前半は隠し味入りオリジナルカレー作りと飯盒炊飯を、後半は炭火バームクーヘン作りを行いました。生地をつけた棒を火の上で回す作業は疲れませんが、子ども達は目を輝かせながら行っていました。自分達で作った料理の味に皆大満足でした。

次に18日は前半にペットボトルロ

ケット作りを、後半に飛距離を競う大会を行いました。最初は飛ばすのに苦戦していましたが、慣れてくるとコツを掴み作戦を立てる様子も見られました。距離は最高で約63mと大人も驚く記録が出ました。

今回、コロナ禍で改めて野外活動の楽しさを味わうことができたと思います。何より子ども達がまた参加したい！と言ってくれたのが嬉しかったです。今後もこのような機会を増やしていきたいです。

(茂原第2団 渡邊 みなみ)



各団からの便り

市原第1団 「ワクワク自然体験」

11月14日、市原第1団では文部科学省委託事業として市原市国分寺中央公園において「ワクワク自然体験」としてボーイスカウト体験会を実施しました。

当初20人の定員予定のところ、30人以上の応募があり保護者と1団スカウト・指導者を合わせ93人の参加者での開催となりました。



内容としては、参加児童・スカウトを班分けし、追跡サインをたどりコースをめぐって設置されたゲームポイントで課題をクリアした内容で班ごとに競うという物でした。

予定を超える参加数で班も4班になり、限られたスタッフで果たして回せるのか不安ではありましたが、

そこはさすがボーイスカウト指導者。臨機応変に立ち回り無事に進行することが出来ました。体験参加の子ども達も十分に楽しめた様でした。保護者の方々にもボーイスカウト活動をアピールできたのではと思います。これを機会に新規入団につながることを期待しています。

市原第3団

市原第3団野営場の現況

市原第3団では2ヶ所の地主さんのご厚意により能満の山林地をお借りして、野営場を開設し野外活動を行っています。

一昨年秋の相次ぐ台風の来襲により雑木が何本も倒れ、太さが30センチもある大枝が折れて、開墾の時に植樹した桜も巻き添えで根元から倒れてしまいました。近くの倉庫やトイレ也大損壊を受けました。当団のスカウトやリーダー、市原第6団のリーダーのご協力を得て、約1年



かけて倒木の整理と倉庫やトイレの修理を完工しました。(今後市原第6団もいっしょに野営場を使用。)

野営場の保全改修とコロナ禍により、しばらくキャンプができませんでしたが、12月12日に久しぶりにボーイ隊のキャンプを行いました。コロナ対応下で制限のあるキャンプで、上進して初めて

キャンプを行うスカウトもいましたが、立派に時間内でA型テントを立てることができました。スカウト達に感想を聞いたところ、「久しぶりで楽しかった。」「忘れていたことも



あったが、できてよかった。」～楽しかった～という声を聞いて、参加していたリーダーもみんな笑顔になりました。“ボーイスカウトはやっぱキャンプでしょう”

市原第5団

お芋の力でコロナに負けるな！

昨年は新型コロナウイルスが蔓延し、思うようにスカウト活動ができないという今まで経験のない一年でした。市原第5団は、団活動として7月に鶴舞公民館を貸切り、入隊式・上進式を開催し、うどん打ちに挑戦しました。また、10月25日には恒例となった佐久間副団委員長の畑で



サツマイモ掘りを行いました。当日は雲一つない快晴で晴れ女・晴れ男の本領発揮となった一日になりました。スカウト達はコロナ過の中、外遊びや部活も制限され、日々子供らしさを発揮できない生活を送っていますが、この日はピーバーからロー

バーまで日頃の運動不足や思うように活動できないうっぷんを晴らすかのように芋ほりに集中しました。近所の幼児を連れてお母さんもピクニック気分で小さなシートを敷きおすそ分けをほおぼり、地域の方とも交流できた楽しい一日になりました。その後は市原市でも数カ所でクラ

スターが発生し状況が一変してきています。このような中、ボーイスカウトの原点に立ち返り、創意工夫でこの難局に立ち向かっていくことが必要ではないでしょうか。早く三島の森でキャンプができますように！！



市原第6団

新型コロナウイルス感染予防しながらの活動

新型コロナ感染拡大防止の緊急事態宣言発令後、5月に初めてZOOMを使った組集会を行いました。画面を通して久しぶりのスカウト達は新しい組でのスタートという事もあり、いつも元気な子供達も何だかよそよそしい感じです。ですが、デンコーチのアイデアで家の中にあるものでしりとりをすることになりました。

なかなか思いつかなくて画面の前であたふたしているスカウトがいたり、自宅での姿が垣間見られたりと、とても盛り上がりスカウト達にいつもの笑顔が戻ってきました。無事に終わったことの安堵と共にやはり直接会って時間を共に過ごすこと、それ以上の物はないのだと実感しました。ですがあれがない、これがないと後

ろ向きに考えてばかりいないで、これならできるかもと前向きにコロナ禍を過ごしていきたいと考えるようになったのは私自身大きな成長であり、今後の活動に活かしていきたいと思います。

(カブ隊デンリーダー 山川めぐみ)



市原第7団

スカウトの日「未来への種をまこう」

スカウトの日とは、全国のスカウトが地域社会に貢献することを目的に毎年9月に全国一斉に活動してい

ます。市原第7団では、今年度は「未来への種をまこう」を活動テーマに9月13日、団野営場に面した林道沿いに花の苗や球根を植える活動を行いました。スカウト18人、新規見学者6人を含めた59人が活動に参加しました。この活動を通じて、動植物の生命の大切さや貴重な自然を維持することの大切さ、自然を大切にす

る心の豊かさを学ぶきっかけとなりました。また当日は、ボーイ隊からベンチャー隊への上進式も行い、5名が上進しました。

団野営場沿いの道が花で満たされることを願うと同時に、我々のスカウト活動がスカウトたちの未来に開ける花咲く道でありつづけることを願いつつ、スカウトの日の活動を終えました。



茂原第2団

「コロナ禍でのキャンプは？」

なにもかもがいつもと違う今年度の活動。おうちスカウティングやウェブ会議など、集まらなくてもできることをいろいろ試しました。でも夏

のキャンプはなんとかみんなでやりたい！という希望。幸い茂原の感染者はまだわずかだったので8月9日、団で朝から夜までのデイキャンプを



することにしました。

場所は睦沢町のやすらぎの森。密にならないように！食事には特に注意！熱中症にも気をつける！たくさんのハードルを越えてのキャンプでした。隊ごとの活動の後、ベンチャー隊が作った信号塔でカブ隊やボーイ隊が手旗をやらせてもらったり、各隊で作った夕食をお互いに試食したり、キャンプファイヤーで盛り上がり、たっぷり1日盛りだくさんのキャンプでした。早く「いつものキャンプ」ができるようになることを祈っています。

東金第1団

柔軟な活動になりました

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として活動が制限された中だからこそその活動が見えて、指導者もスカウトも頼もしく思えました。

ビーバースカウト隊は7月、毎年訪問している老人ケアセンターに色とりどりの手形を押してビーバーの木をプレゼントしました。



カブスカウト隊はクリスマス会が中止になったものの、劇の発表の日に向けて、今回はスカウトたち自身がグリム童話より「オオカミと七匹の子ヤギ」を選び、シナリオも小道具・



大道具も自分たちで考えて作り、12月20日の隊集会で発表しました。今だからできる工夫はなかなかでした。

また、一般の方に向け実施した、8月の「竹水でっぼう」、12月の「ミニ門松づくり」体験会には、いつもより多くの方々が集まりビーバー隊に3人の入隊者を迎えることができ、やはり子供たちは戸外で遊ぶことや材料を工夫して物を作ることに興味



をもってくれることを実感できました。

大網白里第1団 視覚障がい者の体験に参加

コロナ禍で活動が難しい状況ですが、どうしても必要なことはあります。普段はあまり体験できないことを12月6日、社会福祉協議会の皆様に体験させて頂きました。

○社会福祉協議会主催の視覚障がい者の体験に参加できました。スカウ



トと大人がペアとなり建物の外から、2階の部屋まで徒歩で移動します。補助者と障がい者の役割を交互に体験しました。補助者に上腕部を支えられながらゆっくりと移動していきます。障害物まであと何メートルと具体的な指示をすることが大切とのアドバイスはとても有効と感じました。予期せぬ段差は転倒につながる可能性があり、視界が無いことは思っていたより怖いことでした。手を引いてくれるスカウトの案内が大変心強く感じたことと、体験はできませんでしたが盲導犬による補助も頼りになるのではと思いました。

(デンリーダー 佐々木 望)

○私は視覚障がいの方の体験をして、近くで補助をする人の重要性を実感しました。目隠しをしていると、自分がどのような場所にいるのか、全く分からなくなってしまう歩くのも難しくとても怖かったです。ですが



近くで補助をする人がいることで、かなり安心して歩くことができました。また、点字ブロックもとても歩くときに頼りになりました。点字ブロックがあることで「近くになにかあるな」と足でも気づくことができました。なので今後の生活で視覚障がい者の人や点字ブロックを見つけたら、なるべくその付近に荷物などを置かないように気をつけようと強く思いました。

(カブスカウト 佐々木 梢)

日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内にはボーイスカウトの109の団があり、4,684人(令和2年12月現在)が活動しています。また、県内を11地区に分け、我が上総地区もこの11の地区の一つです。上総地区には8個の団が所属しています。

団名	活動地域	入団等問合せ先	電話番号
市原第1団	市原市八幡宿、五井周辺	田中 秀近	0436-21-3840
市原第3団	市原市国分寺台周辺	牛田 智子	0436-36-7747
市原第5団	市原市牛久周辺	山内 憲章	0436-92-0105
市原第6団	市原市辰巳台 ちはら台周辺	齋藤 敏子	0436-75-0392
市原第7団	市原市姉崎周辺	菊池 由紀	0436-62-4004
茂原第2団	茂原市、長生郡周辺	青木 勇	0475-23-9239
東金第1団	東金市、山武市、山武郡周辺	山下 すみ江	0479-80-8551
大網白里第1団	大網白里市周辺	奥貫 誠	0475-72-7988

ボーイスカウト 上総地区ホームページ

<http://bs-kazusa.jp/>

